

はじめに

千葉県は、日本列島のほぼ中央に位置し、四方を利根川、江戸川や東京湾、太平洋に囲まれ、温暖な気候と変化に富んだ地形により、生物多様性に富み、豊かな自然環境に恵まれています。

しかし、近年、都市化の進展や各種開発事業の増大によって、自然環境は著しく改変され、生物多様性は損なわれてきました。

このような状況の中、千葉県の生物多様性の確保を図り、自然環境の保全を進めるため、平成7年度から、千葉県レッドデータブックの作成に取り組み、平成10年度に植物編を、平成11年度に動物編を、平成12年度にはその普及版を作成、発刊し、県民の皆様へ希少生物保護の重要性を普及啓発してきました。

このレッドデータブックの発刊によって、生物種の保全については、一応の成果を出すことができました。

そして、生物種の保全から一歩進んで、生物生息空間の保全を図るため、平成8年度からビオトープの推進事業に取り組んできました。

その成果として作成された、この「ビオトープ事例集」は、県内各地で取り組みが進められているビオトープの中から、生物の生息・生育環境に配慮した保全整備を行った事例や谷津田などの生態系全体を保全する事例、あるいは生物の生息・生育環境として機能するとともに身近な自然とのふれあいの場として積極的に利用されている事例などをピックアップし、まとめたものです。

この「ビオトープ事例集」と、ビオトープを整備・管理するに当たっての全体的な考え方などをまとめた、別冊の「ビオトープ推進マニュアル」を、行政関係者、民間事業者等が、有効に活用することによって、千葉県全体の生物多様性が向上し、自然環境が保全されることを期待しています。

最後に、本書の作成に当たり御指導をいただいたビオトープ事業の推進調査検討委員会の皆様、調査に御協力いただいた皆様をはじめ、関係者の方々に厚くお礼を申し上げます。

平成14年3月

千葉県環境生活部長
飯田 洋